

令和 4 年度 学校評価報告書 1 (計画段階 ・ 実施段階)

学校名	福岡市立福岡高等学校	学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価(総合)	
校長	ふくおか てつろう	志を持ち、自らの目標を達成しようとする生徒と、意欲的・建設的に学校運営に参画する教職員の協働により、「熱・意欲・力」の校訓を具現化する学校をつくる。 そのために、すべての教職員が元気で生徒が安心して学べ、成長できる学習環境づくりと学力向上による進路実現をめざし、生徒に誇りと自信を持たせる教育活動を実践する。 また、市民からの期待と信頼をさらに高めるために、「福岡改革」を推進し、本校の新たな歴史を切り開く学校づくりを進める。	(1) 組織的な学校運営と危機管理の徹底: 「すべては生徒のために」を常に意識し、教職員のもっている力を結集して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたることにも、日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 (2) キャリア教育の推進: 総合学科高校として「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」及び「ジュニア・アチーブメント・プログラム(ジョブシャドウ・SCP・ミース)」に全教職員で組織的に取り組むとともに、SDGs チャレンジプロジェクト、キャリアデザイン等、キャリア教育の推進を図る。 (3) 希望進路の実現と部活動の活性化: 生徒の進路実現を最重要課題とし、ガイダンス機能の充実を図るとともに、各々の進路に応じた学力の定着を図る。部活動の活性化を推進する。(体制、実績、活動内容等) 教育活動を行う。 (4) 働き方改革の推進: 勤務時間を意識した働き方への転換や業務の見直しをはかり、生徒と向き合う時間を確保する。	学校自己評価	学校関係者評価
校長本校在任年数	1年			B	A
学校関係者評価委員会委員長	かわぐち みよじ				
氏名	川口 三代次				

昨年度の成果と課題	【成果】①コロナ禍における工夫(Googleクラスルームによる学習指導、生徒主体による文化祭・体育祭実施、オンライン生徒総会の学校行事実施)、②新学習指導要領にともなうカリキュラムの完成、③SDGsチャレンジプロジェクトの実施、④観点別評価の完成等。 【課題】①コロナ禍による経験を本年度に生かす(ICT機器活用によるハイブリッド授業、HR、学校行事の効果的実践)、②サードステージ第2章の改善・発展、等
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	主体的・対話的で深い学びが得られるような授業改善を図る。また、オンライン学習構築にむけ、ICT機器を積極的に活用し、授業効果の改善を目指す。生徒の学習意欲を高めるとともに、個々の生徒の進路実現を目指す。	ICT機器を用いて、授業の効率化を目指し、深い学びを得られるような授業改善につなげる。 今回の新型コロナウイルスの感染防止に伴う長期に渡る休校措置や出席停止などに対応できるように教育指導体制を構築する。	C C B	ICTの活用については進んでいるが、それが生徒の深い学びにつながらない。授業時間が限られる中で、いかに効率的にICTを活用するか、そしてそれを生徒の主体性につなげることができるかが、今後の課題である。	B	・福岡にはICT教育に優れた多くの先生方がおられるので、まさに他校の範となりえると考えます。大学入試センターにはぜひとも全国の実態を踏まえた情報の作成をしていただきたいと思います。 ・親の一番の関心は大学への進学にある。そのため取組をアピールする。	ICTを活用することには生徒も教師も慣れつつある。今後は生徒の主体的・対話的で深い学びにつながるような活用方法を校内外の研修を受講することによって理解を深め、具体的な授業場面での工夫を一層行っていく。
	新教育課程及び観点別評価の改善を行い、より多くの生徒の進路実現に即したものにす。また、入試改革に伴い、入試の方法を改善していく。	大学入試の変更に伴い、教育課程を再編成する。観点別評価に即した授業アンケートの活用で、教員及び生徒の意識改革に努める。 特色化選抜入学者ガルテラを利用し、今年度も継続して、特色化選抜入学者の面談を行い、入試の改善につなげる。	C C B	大学入試の変更に伴う教育課程は、「情報」に関して未だの部分が多く、再編成は本年度以降の継続課題となった。観点別評価については、まだ意識改革が必要であるが、各教科において話し合いが進められている。特色化に関しては、教科領域の要件を引き上げたことで、より良い受験者を集めることができた。	B	・今後も定期的に交通マナーの指導をお願いします。 ・ネット上のいじめが全国で年齢を問わず問題となる中において、福岡は積極的な取り組みできちんと制約されており素晴らしいと考えております。 ・いじめなど目立った行為がなかったのは日頃の先生方の力も貢献していると思います。 ・生徒指導にはまず「あいさつ」の実施が一番大切だと思う。誰にでもあいさつできる環境を指導していただきたい。「いじめ」も減少すると思う。	観点別評価について、より授業レベルに近づけた評価の在り方について研修を行っていく。
	規範意識の高い生徒を育て、18歳から成人になる意識を持たせる。	自転車通学者に対し、登下校、駐輪、交通マナー指導を定期的に行い、主体的に行動できるようにさせる。 生徒には、その場に応じた挨拶や状況に応じた適切な行動を身につけさせ、学校外でも地域の方々に愛される態度を育成する。	C C B	登下校指導を定期的に行っていたが、交通マナーや、交通マナーを守れていない現状が未だにある。地域の方々に愛される態度をまだ育んでいかねばならない。規範意識は少しずつ持たせることができた。	B	・いじめなど目立った行為がなかったのは日頃の先生方の力も貢献していると思います。 ・生徒指導にはまず「あいさつ」の実施が一番大切だと思う。誰にでもあいさつできる環境を指導していただきたい。「いじめ」も減少すると思う。	社会の一員としての規範意識を高めるような授業や講演会を適宜計画していく。特に自転車通学をしている生徒が多いので、交通安全教室を実施し、交通安全免許証の発行を行う。
	「福岡高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的にいじめ防止を推進する。	定例の(月1回)「いじめ防止対策委員会」とその事務局(週1回)において、未然防止、早期発見、早期解決等にあたる。 生徒がネットによる被害者・加害者にならぬよう、情報端末機器を適切に扱う力を身につけさせ、互いに認め、支えあう人間関係づくりを推進する。	C C C	週1回のいじめ防止事務局会。月1回のいじめ防止対策委員会。定期的に行うネットパトロール、その他の学校活動での取り組みにより、いじめなど目立った行為はほとんどなかった。	B	・いじめなど目立った行為がなかったのは日頃の先生方の力も貢献していると思います。 ・生徒指導にはまず「あいさつ」の実施が一番大切だと思う。誰にでもあいさつできる環境を指導していただきたい。「いじめ」も減少すると思う。	挨拶の励行に努め、温かい学校風土づくりに生徒と共に努める。
進路指導	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行い、進路実現に向けて必要な力を身に付けさせる。	生徒の進路保障のための授業や補習、ガイダンスなどを計画的に準備し、円滑に進める。 学年部と進路指導課の連携を強化し、進路指導課からの情報発信を積極的に行う。	C B B	課外、補習について予定通りの教科を実施することができず、受講人数全体も減少傾向であった。次年度からはきちんと計画を立てて実施をしていきたい。学年部との連携や情報発信についてはICTなどを活用し実施を行った。	A	・総合学科の他の学科・コースの高校との違いは「産業社会と人間」にあります。これが成功裏にできておられるので学校全体の教育も成功したと思います。 ・先輩たちの体験談や将来の仕事のPR等プレゼンが必要だと思う。何を学ぶべきかわからないまま大学等へ進学している状況だと思う。 ・今後の少子化を考えるといかに学生を取り込むか福岡の特色を打ち出す。	課外授業の内容や運用に関する校内での協議に一層努め、一人一人の生徒の進路実現に向けた取組を継続していく。
	キャリア教育の充実を図り、アクティブラーナーの育成を図る。	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を中心にキャリア教育を実施し、主体性・デザイン思考・アウトプットの3つの資質・能力を身に付けさせ、生徒の学習への意識向上を図る。	A A A	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」においてキャリア教育の目指す3つの資質・能力について身に付けさせることができた。	A	・今後の少子化を考えるといかに学生を取り込むか福岡の特色を打ち出す。	夏期休暇の時期を利用し、キャリア実現に向けた講演会や特設授業を検討していく。外務省の海外研修や東南アジアへの研修を活用していく予定である。
	サードステージ第2章を円滑に進めるとともに、キャリア教育を中心とした特色ある取り組み内容を積極的に発信する。 ・3本の矢の推進、充実・改善を図る。 ・福岡市授業推進モデル校として授業研究に取り組み成果を発信する。	希望進路実現のための取り組みを円滑に進める。また、「福岡サードステージ第2章(3本の矢)」を進める。 授業推進モデル校として高大連携を活用し「総合的な探究の時間」の授業研究を行い、内容の充実を図る。また、取り組みの成果を研究大会で発信する。 ジュニア・アチーブメントプログラムなどGoogleglassroomやFormsなどGooglespaceをベースのソフトウェアを場面に合わせて効果的に活用しながらICTの体系化を図る。 ジュニア・アチーブメントプログラムにおいてICTの効果的活用を行い「SCPの活動充実」「SCP活動積極的発信」に努める。またアジア大会への参加を目指す。	B A B A	コロナ禍において実施できない取り組みも一部あったが、概ねのキャリア教育を実施することができた。また、授業改善推進モデル校として研究計画を立てて実践を行うことができた。2か年計画の中で今年度の取り組みを整理分析し、次年度以降さらに発展を目指していきたい。	A	・働き方改革の課題・成果を学校改革の欄に組み込んでいこうか。先生方の熱意が伝わってききました。今後も生徒一人一人に光を当ててください。 ・ICT活用については福岡は県内のリーダー的存在であると思います。今後のICTを一つの柱として授業改善に大きく希望が持てると思っています。	授業改善推進モデル校(2年目)として、外部講師の活用を図りながら、SDGsチャレンジプロジェクトの一層の充実を図り、課題探究能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。
	ジュニア・アチーブメントプログラムなどキャリア教育における取り組みを中心にホームルームや学校行事、授業などさまざまな場面でICTの利用を推進する。	GoogleglassroomやFormsなどGooglespaceをベースのソフトウェアを場面に合わせて効果的に活用しながらICTの体系化を図る。 ジュニア・アチーブメントプログラムにおいてICTの効果的活用を行い「SCPの活動充実」「SCP活動積極的発信」に努める。またアジア大会への参加を目指す。	B A	ICTについて教員、生徒共に授業やHRなど日常の学校生活において活用することができている。場面に合わせた活用や体系化については、まだ課題もあるが、今後改善に努めていきたい。ジュニア・アチーブメントプログラムについては過去最大人数が受講しておりICTを用いながら充実した活動を行った。	A	・働き方改革の課題・成果を学校改革の欄に組み込んでいこうか。先生方の熱意が伝わってききました。今後も生徒一人一人に光を当ててください。 ・ICT活用については福岡は県内のリーダー的存在であると思います。今後のICTを一つの柱として授業改善に大きく希望が持てると思っています。	生徒に対するICTを活用した効果的な授業の推進を行うと共に、教師にとっても2学期から白田操先生の導入ともリンクさせ、働き方改革の推進を行っていく。
特活指導	ウイルス感染予防を講じながら通常の形態での学校行事を企画・運営し、これらの集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	文化祭・体育祭・予備会などの行事を、生徒会が中心となり、自主的な企画・運営ができるよう支援する。 自主的、主体性ある取り組みができるように指導・支援する。	A A B	文化祭(翔星祭と改名)と体育祭は、ほぼコロナ禍以前の形で開催することができた。また体育祭では実行委員組織を改編し、新しく集団演技を加えたりと変化のあった年でもあった。文化祭は内容の充実を図るために実行委員会の在り方について検討していく予定である。	A	・文化祭、体育祭がほぼコロナ禍前に戻り本当に良かったです。多くの部活動の好成績、本当におめでとうございます。 ・共同作業を行い、一体化することの喜びを学んでいただきたい。	生徒会活動と連動させた学校行事の自主的・実践的な取組を継続させるとともに、日々の専門委員会活動の活性化を図る。
	体育部・文化部の活動の更なる活性化を目指す。	定期的な部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができるように意見交換、情報共有等に努める。 部活動加入率90%以上を目指し、部活動生が学校の真のリーダーとなるように研修を行い、育成する。	B B B	部活動の加入率は現状維持できている。多くの部活動が優秀な成績を残している。3年生が引退し新体制になった時に状況が不安定になる部があるので、顧問だけでなく、部活動生間も意見交換、情報共有できるように場を設定するなど対応策をすすめていく必要がある。	A	コロナ禍で実施できなかった部活動生徒に対する生徒集会や部長会を3回実施し、改めて部活動生としての心構えや日常生活に対する姿勢を意識付ける。	
	ウイルス感染症予防を徹底し、心身ともに健康的な学校生活を送ることができる力の育成を目指す。	毎日の健康観察で生徒の体調及び出席状況の変化を把握する。配慮が必要な生徒には、いじめ防止対策委員会を中心に支援を行う。 防災避難訓練やAED研修や献血はコロナ禍の状況を見ながらの実施と合わせて、円滑に実施された。	A A B	健康観察簿で毎朝、生徒の体調を把握し、いじめ防止事務局を定期的に、防災避難訓練やAED研修や献血はコロナ禍の状況を見ながらの実施と合わせて、円滑に実施された。	A	・コロナ対策でお気遣いの多い日々と存じます。校内美化活動、花いっぱい運動への尽力も素晴らしいことと存じます。コロナの中でこそ花いっぱい運動は生徒の心に大きく響いたと思います。 ・整理整頓のできるよう指導していただきたい。(社会に出ても非常に役立つこと)「掃除は自分の心を洗う行動」	生徒に対する心身の健康管理の視点から、気になる生徒の情報共有を次年度も継続して行っていく。
	身の回りや校内外に対する環境美化意識を持ち、心豊かに学校生活を送ることができるように支援する。	日々の清掃活動の中で、生徒会や福祉委員会を中心に適切なゴミ処理や資源ごみのリサイクルを推進していく。 コロナ禍の続く中ではあるが、可能な限りPTAと連携し、花いっぱい運動など、環境美化に努める。	B B	「清掃活動の一環としてゴミ処理を行っているが、まだ分別が徹底されていないので、今後も混入ゴミがなくなる様、対応・努力していく。PTA行事である「花いっぱい運動」は今年度は12月のコロナ感染者増加中の実施で、花屋さんを変更して生徒のみで行ったが、無事に実施できた。	A	・コロナ対策でお気遣いの多い日々と存じます。校内美化活動、花いっぱい運動への尽力も素晴らしいことと存じます。コロナの中でこそ花いっぱい運動は生徒の心に大きく響いたと思います。 ・整理整頓のできるよう指導していただきたい。(社会に出ても非常に役立つこと)「掃除は自分の心を洗う行動」	ゴミの分別活動については次年度も継続して啓蒙していく。PTA行事の「花いっぱい運動」については、PTAと協議の上発展的に解消し、生徒会活動の一環として次年度も行っていきます。
1学年	基本的な生活習慣を確立するとともに、自ら意欲的に学習に取り組ませる。	「産業社会と人間」の授業やホームルーム活動を通じて、自己の将来に向けて目標設定をさせ学習意欲を引き出す。 規則正しい学校生活を送らせるとともに、計画的・継続的に家庭学習に取り組ませる。	B C C	朝の8:35着席完了の取り組み、概ね落ち着いた状況で朝のHRを実施できている。また、帰りのHR前に小テストを実施しているが、取り組みが不十分な生徒が見受けられたので、意義を再確認するなどの取り組みを行いたい。	B	・福岡生としての自覚、プライドの構築に入学期当初から取り組まれていることがよくうかがえます。 ・時間厳守は生活(日常)の基本。さらなるご指導をお願いいたします。	次年度コース別の学習編成になることに伴い、今一度学習に臨む姿勢やキャリア教育と連動させた学ぶ意義について考えさせたい。
	集団への帰属意識を高め、福岡生としてふさわしい態度を身につけさせる。	本校の伝統や校風を理解させ、高校生・福岡生としての意識を持たせよう指導する。 集団への帰属意識を高め、学年団の和を育てる。また、安心して過ごすことのできる環境づくりに努める。	A B B	集合時間、課題の提出期限といった時間を守るという点に課題が残る。挨拶や掃除などは、自覚をもってできる生徒が増えた。指示される前に動く、指示されなくても動くという意識を持つように、福岡生としての自主性と行動力を育てていきたい。	B	・福岡生としての自覚、プライドの構築に入学期当初から取り組まれていることがよくうかがえます。 ・時間厳守は生活(日常)の基本。さらなるご指導をお願いいたします。	日々の係活動や学校行事を通して、集団に対する責任感を醸成し、より意識の高い学年集団に成長させていく。
	基本的な生活習慣の確立とともに、落ち着いた学校生活のもと、文武両道に努めさせる。	あいさつ、時間厳守、自宅学習時間の確保を徹底し、文武両道に努める環境を作る。 進路目標を明確にし、自ら学ぶ姿勢を身につけ、計画的かつ継続的に学習に取り組む態度を養う。	C B	基本的な生活習慣の確立という観点で見ると、全体的に遅刻や欠席の数がやや気になる。授業や部活動において努力している姿は見られるが、進路実現のための自宅学習時間が十分に確保できているとは言えない。自ら主体的に学ぶ力を身につける必要がある。	B	・中核となる学年の教育に力を注がれていることがよくわかります。生徒の主体性、教師との対話が深い学びにつながっていることがわかりました。 ・年間行事の課題研修こそ最大の学びの時間。各自の個性が発揮できると同時に達成感も学べる学習時間だと思います。さらなる工夫ご指導をよろしく申し上げます。	コース別の学習になることでより進路を意識した学習に取り組ませる必要がある。大学や就職、その先を見据えたキャリア教育と連動させ、学ぶ意義について考える機会を設けていく。
	学校行事に積極的に参加し、集団への所属意識を高めさせる。	各行事において、一人ひとりにリーダーシップと協力のあり方を理解させ、集団への所属意識を高めさせる。 研修旅行の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、成長した姿や態度を実感させる。	B B A	文化祭、体育祭、研修旅行といった学校行事において、集団の中での自分の役割を理解し、協働して活動する姿が見られた。活動を通して身につけたリーダーシップと協調性を今後の学校生活に生かしてもらいたい。また、最終学年を迎えるにあたり、責任感と行動力の面で成長を期待する。	B	・中核となる学年の教育に力を注がれていることがよくわかります。生徒の主体性、教師との対話が深い学びにつながっていることがわかりました。 ・年間行事の課題研修こそ最大の学びの時間。各自の個性が発揮できると同時に達成感も学べる学習時間だと思います。さらなる工夫ご指導をよろしく申し上げます。	中堅学年として、学校全体へ意識を向けさせ、後輩の模範となるような意識付けを行っていく。その際日々の係活動や学校行事を活用していく。
3学年	進路実現のために適切な進路指導を行う。	三者面談、二者面談を計画的、継続的に実施し、生徒個々の希望や実情に配慮した、適切な指導をめざす。 高い進路目標を持たせ、その実現のために、自立した態度を育成する。	B B B	進学希望者については、これから私立一般入試や国立大学の個別試験が控えている状況であるが、すでに17名が国立大学に学校推薦型入試や総合型選抜で合格を勝ち取っている。担任を中心に積極的に挑戦を促した成果であると考えている。	A	・総合学科に改編した高校の中で唯一進学面で大きな成果を上げているのが福岡高校であると思います。 ・早期に国立大学の進学が決まり素晴らしいと思います。 ・集大成の日々の中に自覚も身につけてきますが、個人差はあるものの精神的には不安定な時期の日々です。目配り、気配りのアンテナを日常にお願いします。	私立大学だけでなく国立大学の受験生に占める総合型選抜の割合が年々増加傾向にあるので、多様な進路実現の方法に向けて進路指導部と協力しながら校内協議を重ねていく。
	最高学年としての自覚を促し、後輩の示範となる言動を積極的に行わせる。	学年目標である「勇猛果敢」な態度で困難に立ち向かって挑戦する気持ちを促し、後輩にも希望を与えるような空気を醸成する。 あいさつ、時間厳守を中心に、日常の中で随時指導し、自立した態度を身につけさせる。	B B A	3年ぶりに通常開催となった体育祭において、コロナウィルスの影響で、過去2年間の経験がない中で、ブロック役員を中心にリーダーシップを発揮できた。挨拶や時間厳守などの励行は概ねよくできている。朝の着席指導も学年団で協力して行うことができた。	A	・総合学科に改編した高校の中で唯一進学面で大きな成果を上げているのが福岡高校であると思います。 ・早期に国立大学の進学が決まり素晴らしいと思います。 ・集大成の日々の中に自覚も身につけてきますが、個人差はあるものの精神的には不安定な時期の日々です。目配り、気配りのアンテナを日常にお願いします。	最上級生としての意識を高め、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施できなかった学校行事や部活動、生徒会活動でのリーダーシップを発揮できるよう指導助言を行っていく。
	本校が抱える人権に関する諸課題に対応する職員研修会を企画し、人権尊重の精神の涵養を目指し、人権が大切にされた環境を創造する取り組みを推進する。	人権教育全般の指導内容と方法を検証し、本校の抱える人権に関する諸課題に対応するよう改善を図っていく。 校内職員研修のさらなる充実を努め、全教職員に自主的な研修を促す。	B C C	3回の校内人権教育研修会を実施し、ヤングケアラや発達特性に関する知識を深めることができた。生徒の多様化に伴った具体例の提示により、生徒との関わり方について考えた。職員の人権自主研修の広がりまでは至っておらず、案内や実施方法の工夫は今後の課題である。	A	・社会問題となっているヤングケアラの課題解決に向けて職員間で共通の意識のもとにあたりながら取り組んでいきたい。ソーシャルワーカー等との連携も適切と存じます。 ・青年期の「文武両道教育」の取組は最大の学びです。	生徒の実態や教員のニーズに合わせた校内研修会内容を検討する。次年度も継続して校外の研修会や講演会を周知し、自己研鑽の機会を設定していく。
	教育相談活動の充実をはかり、実効的な活動を推進する。	気になる生徒の早期把握と情報共有を推進し、sc・sswと連携して不登校等の生徒数を減らす。 進級指導教室の運営を通して、全職員に特別支援教育の視点に立った教育活動の推進を図る。	B B B	週一回の定例の会議において、気になる生徒の情報共有、不登校傾向生徒の早期発見、支援方針の話し合いを行っている。担当、sc、sswが連携を密にして一人一人の生徒に対して丁寧な対応を心掛けている。定期考査中には拡大の会議で、共通理解と連携、問題解決を図っている。「気になる生徒リスト」の全職員対象の回覧も実施した。今後も多角的な取組の推進が必要である。	A	・社会問題となっているヤングケアラの課題解決に向けて職員間で共通の意識のもとにあたりながら取り組んでいきたい。ソーシャルワーカー等との連携も適切と存じます。 ・青年期の「文武両道教育」の取組は最大の学びです。	次年度から合格者募集日や入学式の日に相談コーナーを設け、生徒保護者の高校生入学時の困り感や懸念の払拭に取り組み。また、次年度も継続して週1回の定例会議で気になる生徒の情報共有に努め早期対応を行う。

※ 学校自己評価は、5段階評価(A〜E)目標を大幅に上回る達成度、B〜目標を上回る達成度、C〜目標どおりの達成度、D〜目標を下回る達成度、E〜目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A〜E)で評価すること。